ドイツさんと久留米 番外編

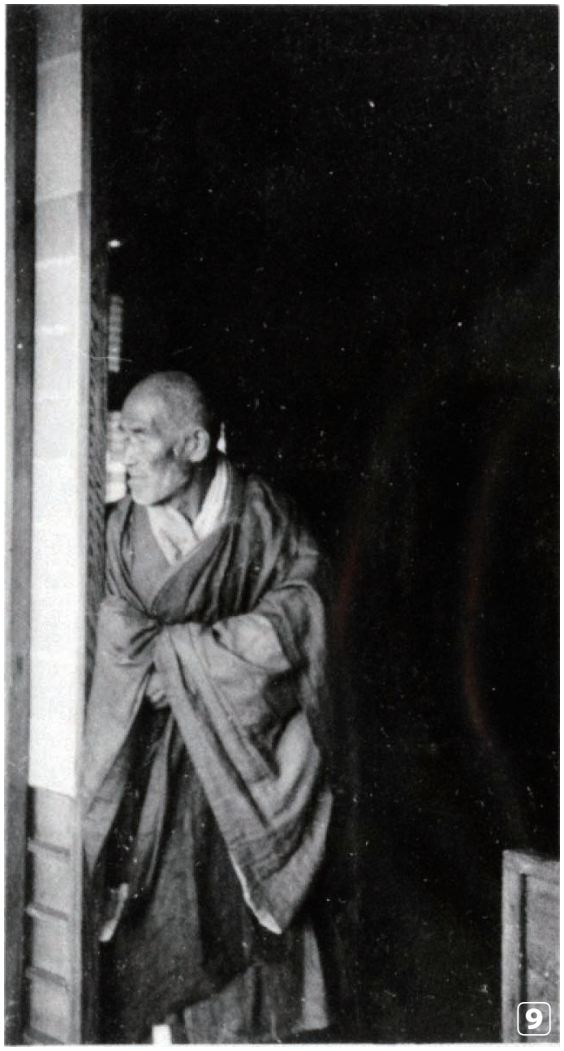
ドイツさんが出会った久留米の人々

ドイツ兵捕虜が構えるカメラの前に集まってきた子どもたち（以下、写真は全て久留米市教育委員会所蔵）

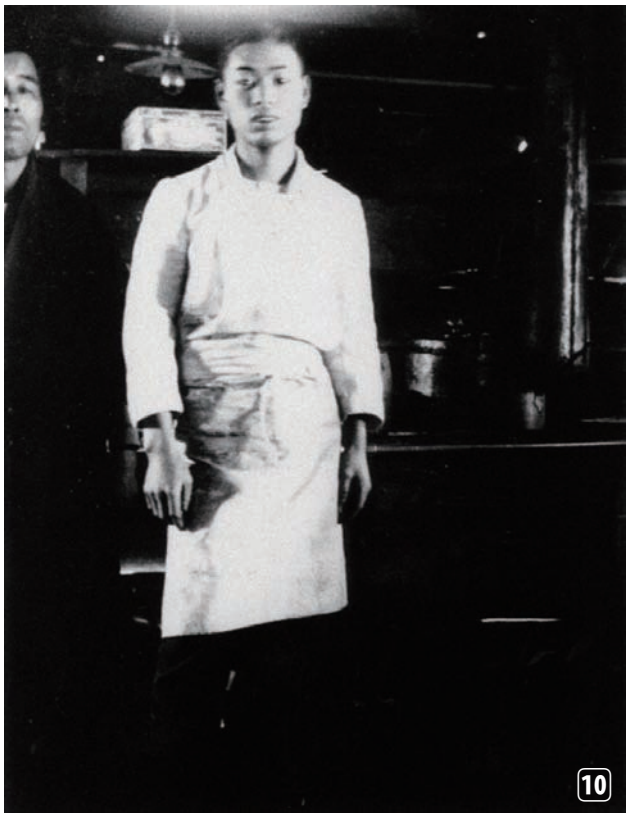
ドイツさんと久留米の人々とは、遠足や労働、各種催しなど、収容所の内外で交流する機会も少なくなかったようです。ここでは、彼らが久留米やその近郊で出会い、カメラに収めた100年前の人々の姿や風景をご紹介します。当時、カメラは一般に普及しておらず、日常生活を写したものは数が限られています。ドイツさんたちが向ける、日本人への関心や眼差しを感じていただければと思います。

「兵舎のすぐ後ろに村がある（国分村）。その道は長く続いて、一本の道からできている。そこには臭い魚類（生もの・燻製・乾物）を売る店が一つ。あちらには果物屋、こちらにはお菓子屋。あちらには竹の網み籠、こちらには少女の紡ぐ機。あちらでは金細工師が金のリングを作り、こちらは郵便局、あちらには寺の入り口という具合で、どの家も何らかの目的で建っているらしかった。どの家も開け放たれているので、中の庭まで見えた。大人は真夏でも火鉢の周りにすわり、見たところ暇そうに煙草を吸っている。しかし子供はあいかわらずこちらに走って来て、目を丸くして僕らを見つめる。大人が醜く汚いのと同じくらい、こどもは可愛らしくて感じが良い。（中略）40分ほどしてやっと家並みを抜け、稲を植えた広い平野が目の前に広がった。日本人がどの隅にも水がいきわたるように給水を整えたのは、驚くべきことだ。（「フィッシャー回想録」生熊文訳）

1 日よけ傘の下のカゴで親を待つ赤ん坊　2 ドイツさんに手を振る子ども　3 女の子たち（髪は桃割れに結い上げている）　4 自転車の練習をする少年（青ばなが垂れているようだ）。写真には、「初めての練習を助ける」とある



5 収容所の掃除夫　6 屋外で入浴する兵士　7 神社のお祭り　8 川の対岸からドイツさんを眺める生徒　9 戸外を見る老僧



⑩収容所酒保（売店）の店員　⑪作業をする女性たち　⑫収容所で飼われているアヒル　⑬材木商の男性（法被には「山口材木商」の文字）　⑭下肥の入った桶を大八車で運ぶ親子。写真には「私たちが日本農業に配達したもの」という書き込みがある　⑮バラックの屋根を修理するトビ職

⑯屋外での経巻（たてまき）作業（※縦糸の絵柄を揃える作業）を見学する人々　⑰雑貨屋の店先（つちやたびの看板や売り物の草履等が見える）　⑱神社の橋の欄干から池を眺める人々　⑲渓流での納涼

⑳田植え風景　㉑馬を使った代かき　㉒夏の草取り　㉓踏み車（水車）による揚水作業

企画制作　久留米市 市民文化部文化財保護課・総合政策部広報戦略課
令和元年（2019）12 月 27 日　発行